

長崎県五島地方には「今日の御じき」というオラシヨが残されています。食物をお供えする際に唱えたオラシヨとされていますが、1番にサンタ・マリア、2番にイエス・キリストなど、お供えを捧げる対聖人や聖地が

富岡の千人つかのお役人様・・・
をうえ（大江）の दौरらつかのあるぢ様
赤崎六郎兵衛様
つれ合女房ひいなへ
古寺の御役人・・・
指の津二本松のお役人、善人様・・・
中町の川上にごさなざる
御両人の御兄弟様・・・
今どめのつかのあるぢ様・・・
しまこのつかのあるぢ様・・・

■オラシヨ
今日の御じき(抜粋)

と伝えられている場所で、今も「古寺さま」として大江で大事にされています。「指の津二本松のお役人、善人様」などは崎津の聖地を示しています。中町の川上



▲今富の聖地「弓取りの墓」



▲大江の聖地「古寺さま」

にござなざる御両人の御兄弟様」は、崎津の中町のことと推測され、川上とあるので、谷になつている崎津諏訪神社周辺に存在したのかもしれない。「今どめのつかのあるぢ様」は、今富のキリシタン墓のこと

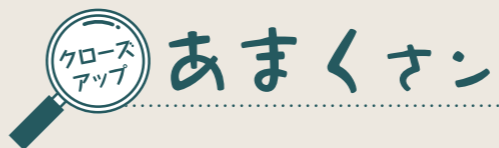
と思われまふ。今富地区には1805年の天草崩れの時に「聖地」と認識されていた場所「弓取りの墓」があるので、「今どめのつか(今富の塚)」はそこを指している可能性があります。「しまこのつかのあるぢ様」は有明町島子のことではないかと推測されます。そうであれば島子にも潜伏キリシタンにとつての聖地が存在していたことが考えられ、天草の各村々ごとに数多くの聖地が存在していたのかもしれない。

近年、五島列島の奈留島で、この内容を記したオラシヨが新たに発見されました。奈留島は、海外の潜伏キリシタンが移住して集落が形成されていますが、このオラシヨの発見から、実際には天草の潜伏キリシタンと交わりがあったことがうかがえます。各地の潜伏キリシタン集落は、信仰を秘かに隠しながら、実は集落同士では情報交換をしていたのかもしれない。

特定の宗教・信仰にとって、重要な場所を示す「聖地」。潜伏キリシタンにとっての聖地は、先人が信仰を示し、殉教した場所であることが多かったようです。今回は、天草の潜伏キリシタンにとっての聖地を長崎県五島地方に伝わるオラシヨ(潜伏キリシタンが口伝してきた唱え言葉)から見ていきましょう。

【祝・世界文化遺産登録】天草のキリシタン遺産

【問い合わせ先】世界遺産推進室(河浦支所内) ☎096-11116



今日も安全運転
お願いします

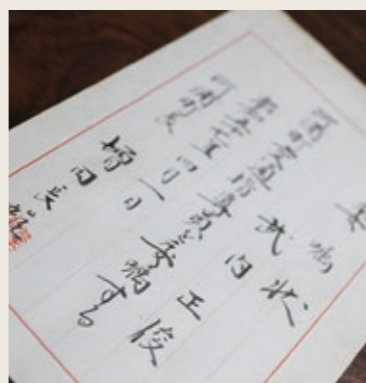
天草市河浦支部交通指導員
武内正俊さん

「じゃあ行ってくる」
そういつて自宅を7時過ぎに出た武内正俊さんが向かう先は近所の国道。道路に面して住宅があり、歩行者が行き来するこの場所は、カーブがあり見通しが悪い。スピードに乗った車が走り抜け、年に数回事故が発生している。武内さんは貸与された交通指導員の制服に身を包み、指導棒を持って車の往来に目を光らせる。「この格好で街頭に立つことに意味があるんです」と話す武内さん。ドライバーの目に留まりやすく、注意が働きスピードが落ちる。

しかし、四六時中立っていることもできないので、模造パトカーを道路脇に置くことを提案。警察や牛深地区交通安全協会の協力を得て4年前に設置にこぎつけた。その後ドライバーが慣れてしまわないうように定期的に設置場所を変更している。
昭和57年に交通指導員の委嘱を受けて以来37年。長年の功績が認められ、今年1月に東京で行われた「第59回交通安全国民運動中央大会」で警察庁長官と全日本交通安全協会会長の連名で交通栄誉章緑十字銀章を受章した。
春と秋の交通安全運動の期間をはじめ、折に触れて街頭に立つ武内さんを妻の繁美さんは長年送り出してきた。そんな繁美さんに同協会は感謝状を贈呈。地域の安心安全を守ってきたのは、街頭に立つ正俊さんだけでなく、家族の協力があればこそ。
「交通事故は、起こした人も遭った人も不幸にします。あなたの大切な人を悲しませないでほしい」。
武内さんはこれからも街頭で地域の安全を見守り続ける。



▲1月の受章式には夫婦揃って出席



▲最初の交通指導員の委嘱状。今も大事に保管している



▲指導棒も用途に応じて使い分ける



▲模造パトカーにはかかしが乗車